

那須温泉 CO₂削減へ熱気

旅館・ホテルが地域ぐるみの協議会

栃木県那須町の温泉旅館やホテルが地球温暖化防止に地域ぐるみで取り組む。六日に協議会を発足、温泉湯を暖房や道路の融雪に使い、排出される二酸化炭素(CO₂)を抑える試みをスタートする。環境に優しい温泉地のイメージを訴える狙い。同時に暖房費などのコストを削減、参加事業者の経営効率化に役立てる。

- 地球温暖化協議会の役員(敬称略)
- | | | |
|-----|--------|-------------|
| 会長 | 廣川 允彦 | 松川屋那須高原ホテル |
| 副会長 | 高橋 広行 | 旅館ひがしやま |
| | 稲川 裕之 | 新那須温泉供給 |
| 幹事 | 大高 秀三 | 大丸温泉旅館 |
| | 柴田 秀久 | 那須オオシマフォーラム |
| | 片岡 孝夫 | 山水閣 |
| 監事 | 室井 仁 | 旅館 清水屋 |
| | 鬼塚 英典 | 那須ゴルフ倶楽部 |
| 顧問 | 佐藤 正洋 | 那須町長 |
| | 増淵 三津男 | 栃木県議 |



設立総会には地元の旅館・ホテル経営者ら約30人が出席した(6日、那須町)

「環境にやさしい」町PR

協議会の名称は「那須温泉地球温暖化対策地域協議会」(会長・廣川允彦松川屋那須高原ホテル会長)。六日に設立総会を開いた。

那須町が持つ源泉数は百三十一で県内有数の温泉地。わき出る湯の量は毎分約一万八千リットルで、県内の約三割を占める。まず各旅館、ホテルから排出される湯から熱エネルギーを取り出す熱交換システム「ヒートポンプ」の導入を検討する。

集めたエネルギーを暖房などに使う。普通の水からもエネルギーを取り出すことが可能。設備導

入には約六千万円がかかると、年間の暖房代を「九割近く削減することが可能」(新那須温泉供給の稲川裕之社長)という。

また木製、鉄製サッシを樹脂サッシに代えた。熱湯を常温の水に代えるパネル式の熱交換機の新設なども考える。十団体以上でまとめて導入を決めると、環境省から補助金を得られる。同協議会からメンバーに導入を呼びかける考えだ。

CO₂削減に向け、協議会を立ち上げ、地域ぐるみで取り組んでいく試みは栃木県では初めてで、「全国的にもまだまだ珍しい事例」(廣川会長)。隣県では群馬県の草津町が同様の動きを始めている。